

書燈

2020年 No. 54



図書と大学とわたしたちと



高田 英和
人間発達文化学類

大学の4年間は(うちの大学だと、学類の、通常の、在学期間のことになるけど)、大学に入学するまでに学んできたものを、一旦学び捨てる、と同時に、新たに学び始める、そのためにあるのだと、わたしはとらえています。

(言い換えになっているか、わからないけど、)通常、わたしたちが小学校・中学校・高校で主として学び構築してきた、「正しい」人間になるための、たとえば「正しい」道徳心や倫理観すなわち社会規範などは、はたして、実際のところ、「正しい」ものだったのかどうか、ということを考えることに、4年間という(長い、短い、人によるけど)大学生活は、あるのではないかと。

ちょっとカッコイイ言葉で言うなら、learningしてきたものを、un-learningして、で、re-learningする、ということ。あるいは、constructionしてきたことを、de-constructionし、そして、re-constructionすることになるかしら。

別にこれは、大学において、だけに限定されることではなくて、大学を卒業しても、続いていくことだと思います。このサイクルを生涯にわたって行っていくことの重要性を、大学できちんと身につけることができる、ここに、大学の存在意義はあるはずです。

このようにとらえるならば、そこで、重要になるのが「図書・本」／「図書館」の存在ということになるでしょう。大学においては、授業の存在も同様に重要であることは間違いのないのですが、これには限度があります。1つ・1コマの授業は基本的に90分の15回で成立しているの、ここで扱わ

れ紹介される文献の量には限りが生じます。多くの授業を受けることで、必然的にその量は増えますが、それでも、絶対的に少ないというのが現状だと思います(どのくらいの量があれば、良いかはあれだけ)。授業はあくまで切っ掛けであるにとらえて、授業で興味・関心が得られたことを、各自、「図書・本」でさらに調べてみる、また、それらに関するさらなる知識を「図書・本」から修得するというのが、良いのではないのでしょうか。

この、今の時代、グローバルの時代において、知識、言うなれば、教養は、21世紀に生きるわたしたちにとっては、非常に重要であるはず。特に、これは、自由と個人に重きを置く現代社会の、言わば、自由主義・個人主義という暴力と表裏一体の関係にある、格差・二極化や、自助努力・自己責任といった問題から目を背けず、それらの問題に対処することに費やされるべきでしょう。(決して、たとえば経済や個々の「成長」とかいうもの、に向かうのではなくて。)

世界の、この、自由と個人を基盤にした、グローバル化の潮流に積極的に乗ることが、実のところ、格差・二極化を生み出し、そして、それは同時に、自助努力・自己責任という名のもとに正当化されています。これは、非常にゆゆしき事態です。この点を踏まえたうえで、このような時代における、「図書・本」から学び得る、知識・教養、その意義と価値は、端的に言えば、グローバル化(新自由主義)の波に抗い、格差社会を是正することの重要性とその正当化にあるでしょう。老若男女、セクシュアリティ、人種など、あらゆる差異を問わない、豊かで平等な社会を(再)構築すること、それこそが「図書・本」の存在意義であり、それを施すのが、「大学」とその「図書館」であるべきだと、わたしは強く感じるのです。

(なんか、最後の方は、固く、真面目になってしまったわ…。でも、あたし、周りからどう見られているか知らないけど、どう見られてても良いけど、基本的に、非常に、堅く、真面目な人間なのよね。不器用ですから。)

強烈な表紙のこの本、もしかすると皆様も一度は手に取られたかもしれません。初版は2017年5月発行で、「思い出の一冊」とするにはやや新しいようにも思いますが、特に印象に残った一冊ですのでご紹介したいと思います。

バッタの大量発生は食糧安全保障に深刻な影響を与える要素で、2020年3月にNature誌に関連記事が掲載されたほか(Roussi, 579, 330)、2020年の夏に起こったインドでの大量発生が印象に残っている方もいるのではないのでしょうか。本書は、農作物を食い荒らすサバクトビバッタの防除技術を開発するため「若い博士が単身サハラ砂漠に乗り込み、バッタと大人の事情を相手に繰り広げた死闘の日々を綴った一冊」です。

なぜサバクトビバッタが大量発生するのか？これは、サバクトビバッタの独特な生態が原因です。サバクトビバッタはまわりに仲間がいない場合にはおとなしい孤独相をとります。雨が降って餌となる草が増えてくると、孤独相の個体は草を食べて繁殖を開始します。次第に数が増え、たくさんの仲間がいる中で発育すると群生相と呼ばれる活発な状態になり、害虫化します。世界各地の穀倉地帯には必ず固有種のバッタが存在しており、サバクトビバッタが生育するモーリタニアではコムギやトウモロコシが生産されています。なお、雨が降らなくなると草が枯れ、地中も乾燥して大群が維持できなくなり、最終的に死滅します(国際農林水産業研究センター HP)。

ただ、大発生は毎年起こるとは限りません。著者が訪問した1年目には大干ばつに見舞われ、サバクトビバッタは完全に姿を消しています。2年目には無事(?)大発生し、飛翔や餌のデータを収集し、群れの活動の法則性を見出すことに成功します。著者は「サバクトビバッタ研究を進展させるためには野生のバッタの生態を明らかにしなければなりません。(中略)誰か一人くらい人生を捧げて本気で研究しなければ、バッタ問題はいつまで経っても解決されないと思います。」と訴えており、モーリタニアのミドルネームの最高峰である“ウルド”を授かっています。

我々研究者の原点はどこにおくべきでしょうか。大き

く分けて、自身の好奇心に基づくものと社会的な要請に基づくものがあるように思います。いずれにしても仮説を観察や数値計算で検証することが必要ですが、著者はcurious orientedで研究を進めているように思います。近年、地球温暖化を始めとする環境問題が多く叫ばれる中で、どうしても社会的な要請から研究を進める必要があるのが現実です。ただ、自分の興味のある対象をひたすらに突き詰めていく、本来あるべき研究者(私案です)としての姿が本書に現れています。

一方で、第7章ではポスドクとしての現実についても書かれています。モーリタニアでの海外学振ポスドクの期限が切れ、滞在3年目に無収入へ転じます。ここで受け入れ先の所長から、「つらいときは自分よりも恵まれている人を見るな。みじめな思いをするだけだ。つらいときこそ自分よりも恵まれている人を見て、自分がいかに恵まれているかに感謝するんだ。(一部抜粋)」と諭されます。どうしても自分の置かれた環境に気になる点が見えるのが常ですが、あらためて見渡してみることでまた日々の業務に取り組んでいけるのではないのでしょうか。なお、著

者はこの後京都大学の白眉センター特定助教を経て、つくば市にある国際農林水産業研究センターの研究员になられているようです。

最後に、皆さんは書籍をどの媒体で読まれるのでしょうか。執筆依頼を受けた際に自分の持っている本を確認したのですが、最近ほぼ電子書籍でした。今ではamazonから1クリックで購入することができ、ダウンロードした書籍はkindleアプリをインストールしたタブレット端末で読むことができます。冊子体は冊子体としてのメリット(実物が手元に残る、ページ数が体感でわかる)があるかと思いますが、やはりどこにでも気軽に持ち運べる電子版は魅力的です。本書も電子版での購入が可能です。文体もやわらかく、写真も多いためそれほど時間がかからず読み切ることができると思います(kindleアプリでは読み終えるまでの平均的な時間が4時間46分と表示されています)。ぜひ一度読んでみてください。



バッタを倒しにアフリカへ

前野ウルド浩太郎著
(光文社新書, 883)
光文社, 2017.5

資料展示コーナーに「東日本大震災 福島大学の記憶」を開設しました

東日本大震災における本学の取り組み及び本学で所蔵する貴重資料を紹介するため、学内のワーキンググループにより検討を進め、令和元年9月11日より、図書館1F資料展示コーナーにおいて「東日本大震災 福島大学の記憶」の展示を開始しました。

■ 第1回展示：令和元年9月11日（水）～令和2年7月28日（火）

第1回目は、2011年3月の発災直後から同年5月に新入生を迎え入れるまでを取り上げた内容を展示しました。本学の被災状況を介绍する写真のパネル展示のほか、大学施設を避難所として開放していたことから、そこで使用されたダンボールハウスの再現も行いました。



展示の様子



ダンボールハウスの再現

■ 福島大学創立70周年記念事業「東日本大震災 福島大学の記憶」 オープニングセレモニー：令和元年9月11日（水）

● 13:00-14:00 テープカット

● 14:00-15:00 紺野美沙子さん朗読会

女優の紺野美沙子さんによる記念朗読会を開催し、会場が満席となる約200名の来場者がありました。福島市ゆかりの作曲家である古関裕而氏の話からはじまり、様々な会話を織り交ぜながらのピアノ演奏と朗読を聴いたあと、最後には参加者全員で詩人・谷川俊太郎「生きる」を群読しました。

● 18:00-18:30 「希望のヒカリ」点灯式

夜にはイルミネーション「希望のヒカリ」点灯式を行いました。
この「希望のヒカリ」の一つは、現在も展示コーナー入口にあります。



■ 第2回展示：令和2年8月5日（水）～

第2回は、「人間発達文化学類 子ども支援ボランティアの四季」として、熱心に活動に取り組む学生の姿や当時の状況などがパネルで紹介されています。

今後もテーマを変えながら展示を継続していきますので、図書館にお立ち寄りの際はぜひご覧ください。

新型コロナウイルス感染症への対応について

新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大のなか、学内外の状況に合わせて、図書館としても令和2年3月10日以降、以下のような対応を行っています。現在も一部のサービスを制限していますので、最新のサービス内容は、ホームページをご確認ください。

2020年11月末日までの対応

1. 開館状況	臨時休館	4/22 (水) ~ 5/17 (日)
	時間短縮開館	5/18 (月) ~ 5/29 (金) 平日 10:00 ~ 15:00 6/1 (月) ~ 7/10 (金) 平日 9:00 ~ 17:00 7/11 (土) ~ 8/7 (金) 平日 9:00 ~ 17:00、土曜 10:00 ~ 17:00 8/8 (土) ~ 9/30 (水) 平日 9:00 ~ 17:00、土曜 11:00 ~ 17:00 10/1 (木) ~ 現在 平日 9:00 ~ 21:45、土曜 10:00 ~ 17:00 ※現在に至るまで、日祝日の開館なし
	参考： 通常開館	~ 4/21 (火) 【授業期間】 平日 9:00 ~ 21:45、土曜 10:00 ~ 21:00、日祝 10:00 ~ 17:00 【休業期間】 平日 9:00 ~ 17:00、土日祝 11:00 ~ 17:00
2. 開館時の 施設・設備の 利用制限	閲覧席	3/31 (火) ~ 4/21 (火) 通常 (664 席) の 5 ~ 6 割程度 4/22 (水) ~ 5/29 (金) 利用休止 6/1 (月) ~ 9/30 (水) サービスの状況に合わせ 1 割未満 ~ 3 割程度 10/1 (木) ~ 現在 6 割弱程度 (386 席)
	共用 PC	4/22 (水) ~ 8/7 (金) 利用休止 8/8 (土) ~ 9/30 (水) 学習用 PC は 66 台中 25 台が利用可、蔵書検索専用 PC は 6 台全て利用可 (~ 現在) 10/1 (木) ~ 11/12 (木) 学習用 PC 42 台利用可 11/13 (金) ~ 現在 学習用 PC 54 台利用可
	その他	3/10 (火) ~ 現在 学習個室 (スタディールーム) の利用休止 4/10 (金) ~ 9/30 (水) 2 人以上での利用、及び館内での利用者同士での会話禁止 10/1 (木) ~ 現在 マスク着用のうえ、会話可能なスペースあり
3. 入館対象	学内	5/18 (月) ~ 5/29 (金)、8/24 (月) ~ 8/29 (土) 本学教員、修士・博士論文研究または卒業研究を行う本学学生のみ 6/1 (月) ~ 8/22 (土)、8/31 (月) ~ 現在 学内者
	学外者	3/27 (金) ~ 4/9 (木) 利用制限 4/10 (金) ~ 現在 利用休止
4. サービス	閲覧	4/22 (水) ~ 6/30 (火) 休止
	来館貸出	4/22 (水) ~ 5/17 (日) 休止 5/18 (月) ~ 現在 貸出希望図書の前申込 (準備完了後に来館して受渡) を実施【申込受付: 291 件 (446 冊)】
	郵送貸出	6/12 (金) ~ 8/7 (金) 本学学生対象に実施 (1 回につき 1 人 2 冊まで (最大 2 回・4 冊まで)) 往路の送料のみ大学負担【申込受付: 39 件 (73 冊)】
	複写	4/22 (水) ~ 5/17 (日) 休止 5/18 (月) ~ 現在 代行コピーを実施【申込受付: 45 件 (136 文献)】 7/1 (水) ~ 現在 通常のセルフコピーを再開
	ILL (他機関からの本の借受・文献取寄)	4/22 (水) ~ 5/17 (日) 休止 5/18 (月) ~ 6/30 (火) 教員のみ 7/1 (水) ~ 現在 通常運用
	レファレンス	4/22 (水) ~ 5/17 (日) 休止 5/18 (月) ~ 5/29 (金) 来館によるレファレンスは不可 6/1 (月) ~ 現在 通常運用 (メール推奨)
	電子資料の提供	・学外アクセス可能な電子資料の利用方法案内 ・出版社等からのご厚意による無償提供や拡大利用の案内
5. 館内の 感染防止対策 (1. ~ 4. 以外)		・手指消毒用アルコールの設置 ・平日毎朝の共用部分等のアルコール消毒 ・窓口に飛沫防止のビニール設置 ・全館の換気 (事務室を含む) ・事前申込の図書や返却資料等の除菌

感染症対策への協力をお願い

収束が見えない状況の中、利用者の皆さまには一部の利用が制限されており、ご不便をおかけしておりますが、引き続き、感染症拡大防止のため、他の利用者と適度な距離を保つことや館内でのマスク着用、手指消毒の励行などに、ご協力をお願いいたします。

除菌 BOX もぜひご利用ください (本のみ可) →



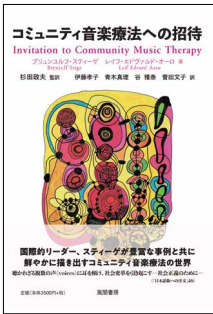
書庫紹介〈資料再配置の報告と今後の予定〉

図書館は、2014～2015年に改修・増設工事を行い、2015年7月にリニューアルオープンしました。その際、書庫1層にあった製本雑誌の大部分が新館1F雑誌室へ移動して書庫内の資料配置に余裕ができたことや、書庫の入口が1層から3層へ変更になったことなどにより、書庫内全体の利用環境改善のため、入口近くに使用頻度の高い資料を置くなど、全面的に資料配置を見直すことになりました。リニューアル後の毎年3月・9月の館内整理期間等を利用し、大部分を当館職員等(学生も含む)の人力により、約5年かけて60万点以上の資料の移動作業を行いました。

現在は、以下のとおり大方の資料移動が完了し、大学院生と教員のみ入庫できる状況となっています。書庫内の整備ができつつあることから、今後は、避難経路を含めた環境整備を進め、運用を見直しながら、学生の皆さんなど必要な方が入庫できるように検討していきます。



学内教員著作寄贈図書



コミュニティ音楽療法への招待

ブリュンユルフ・スティーゲ、
レイフ・エドヴァルド・オーロ著；
杉田政夫 監訳；青木真理、
谷雅泰[ほか]訳
風間書房，2019.6

146.8
St6k

資料ID: 119025110

コミュニティ音楽療法とは、セッション室内におけるセラピストとクライアントの二者関係に限定して捉えられてきた従前までの音楽療法を、開かれたコミュニティ活動へと転換することで、障害者、高齢者らの社会参画の促進、健康の増進、文化的生活の実現を企図する新たなパラダイムである。クライアントを取り巻く社会・文

化的コンテクストに意識を傾注しつつ、人権や社会正義の理念に立脚してその改良にも関与することで、コミュニティ自体の変革までを射程とする。ブリュンユルフ・スティーゲ氏は、同音楽療法の理論的指導者として国際的にその名を知られる人物である。訳者らは氏とノルウェーにて4度の打ち合わせを実施し、また本書で言及されている福祉・文化施設、病院、刑務所等での参与観察を重ねながら、邦訳作業を進めてきた。本書では同音楽療法の有する諸特性(参加型、リソース志向、パフォーマンス的、活動家的、生態学的、省察的、倫理推進的)が、音楽療法はもとより音楽学、思想・哲学、教育学、心理学、社会学、政治学、経済学、公衆衛生等々の学際的な視角から、精緻且つ重厚に論じられている。

(人間発達文化学類／杉田政夫)



複線径路・等至性アプローチ(TEA)が拓く保育実践のリアリティ

中坪史典編著；
保木井啓史[ほか]著
ratik, 2019.7

140.7
N43f

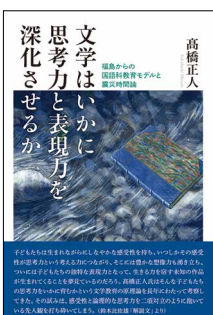
資料ID: 119034020

複線径路・等至性アプローチ(以下、TEA)は、人や人々の経験や変容のプロセスを、文化的・社会的・関係的な諸力からの影響も含めて描き出す質的研究の方法論である。本書は、「子どもの経験」「保育者の専門性」「保育者

の成長と葛藤」に大別される12のテーマで、TEAを用いて保育実践のリアリティを描き出し、その上で、保育を質的に研究するにあたってのTEAの意義を検討したものである。

ありふれた保育場面の微細な言動が持つ意味、1年やそれ以上のスパンでの保育者や保育者コミュニティの変容といった事象が、個別具体的な文脈を踏まえて示されることで、保育実践の奥深さを堪能できる書となっている。また、各著者が、失敗談や分析の試行錯誤などを紹介した「本研究のアナザーストーリー」は、TEAの運用についての初学者向けの格好の手引きになる。

(人間発達文化学類／保木井啓史)



文学はいかに思考力と表現力を深化させるか

福島からの国語科教育モデルと震災時間論

高橋正人著
コールサック社，2020.5

375.8
Ta33b

資料ID: 120005096

本書は、文学作品の読みを通して自己と向き合うことが豊かな人生を育むことにつながる事になればとの思いから、二十数年間にわたる文学作品をめぐる思索及び研究の一端をまとめたものです。作品として採り上げた

のは、教科書教材としてなじみの深い新美南吉『ごんぎつね』、立松和平『海のいのち』、ヘルマン・ヘッセ『少年の日の思い出』、中島敦『山月記』、夏目漱石『こころ』『夢十夜』、川上弘美『神様2011』などのほか、小津安二郎監督の映画『東京物語』など多方面にわたっています。

東日本大震災から十年を閲し、新型コロナウイルスの収束も見えない現況ですが、文学作品との〈対話〉を通して、日々を生きること、学ぶこと、話すこと、聞くこと、見ること、感じること、考えることなど、人が人であり続けるための深い〈問い〉について思索を巡らす契機として、学生・院生の皆さんに手に取っていただくことを期待します。

(人間発達文化学類／高橋正人)

著作資料のご寄贈のお願い

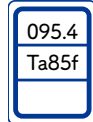
先生方からご寄贈いただいた資料は、新館2Fの「福島大学教員著作物コーナー」等に配架され、本学の貴重な資料として永く保存し、広く学生や地域の方にもご利用いただいております。著作物のご寄贈について、ご協力をお願いいたします。



ふくしま原子力災害からの複線型復興

一人ひとりの生活再建と「尊厳」の回復に向けて

丹波史紀, 清水晶紀編著
ミネルヴァ書房,
2019.6



資料ID: 119024866

東京電力福島第一原子力発電所事故から、早くも10年を迎えようとしています。広域かつ長期にわたる原子力災害は現在も続いており、未だに生活再建を見通せない被災者の方々も、少なくはありません。本書では、本

学うつくしまふくしま未来支援センターを拠点に編著者らが実施した双葉郡住民実態調査(2011年、2017年)やその他の現地調査を踏まえ、被災者の生活再建や被災地域の再生に何がどう影響しているのかを、政策、情報、福祉、経済などの多角的な視点から分析しています。その上で、現在の復興政策の枠組みを批判的に検討し、原子力災害からの生活再建・地域再生の道筋の多様性に着目して、「複線型復興」という政策提言を行いました。

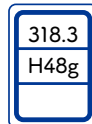
本書が、一人ひとりの被災者のみなさんの生活再建と「尊厳」の回復に向けて、とりわけ、未だに生活再建を見通せない方々を支える法政策の道標として活用されることを、心から願っています。

(行政政策学類/清水晶紀)



学歴・試験・平等 自治体人事行政の3モデル

林嶺那著
東京大学出版会,
2020.1



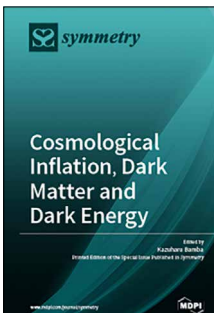
資料ID: 119050035

自治体の人事システムなんて、どこも大した違いはないだろう、と思う人もいるのではないのでしょうか。というのも、地方公務員法という統一的なルールがあり、給与条例などの似たようなルールが各自治体で定められる

ことも多く、類似する規模の自治体であれば、担当している仕事も非常に似通っているからです。

しかしながら、この予想は決して正しいものではありません。本書は、自治体人事システムの多様性を、大阪市役所、東京都庁、神奈川県庁という3つの大規模自治体を素材に明らかにしています。少なくとも20世紀後半の自治体には、3つの世界がありました。大阪市役所のように学歴を重視する世界、東京都庁のように昇進に際して課される試験を重視する世界、そして神奈川県庁のように職員相互の平等性を重視するような世界です。人事管理にご関心のある方にはぜひ読んでいただければと思います。

(行政政策学類/林嶺那)



Cosmological Inflation, Dark Matter and Dark Energy

special issue editor,
Kazuharu Bamba
MDPI, c2019



資料ID: 119045567

本書は、国際学術誌「Symmetry」での特集“Cosmological Inflation, Dark Matter and Dark Energy”が単行本として刊行されたものである。物理学の基礎的理論(一般相

対性理論、素粒子理論および場の量子論)に基づく現代宇宙論に関する13編の原著論文から構成される学術論文集である。近年のPLANCK衛星による宇宙論的超精密観測により、初期宇宙における急速な加速膨張であるインフレーションのみならず、現在の宇宙も加速膨張していることが明らかにされ、その要因として負の圧力をもつ暗黒エネルギーの存在が示された。さらに、宇宙は、通常の物質(バリオン)が約5%、光で輝かない暗黒物質が約26%、残りのおよそ69%が未知の暗黒エネルギーで占められていることが示唆されている。本書の学術論文では、これらの宇宙の三大物質組成の起源に関する様々な議論が展開されている。

(共生システム理工学類/馬場一晴)

カウンターの内側から

人間発達文化研究科1年 神谷 一生

私が附属図書館での勤務を始めてからもうすぐ4年目に入ろうとしています。この間に、図書館内の様子も利用者の様子も毎年のように遷り変わり、日々異なる図書館を楽しみながら働くことができたように思います。

ラーニングcommonsやスタディールームで友人とともにディスカッションする人、IPCエリアや開架閲覧室で試験やレポートなどの課題に向かって一生懸命頑張っている人と毎勤務ごとに異なる利用者の皆さんの様子、そして東日本大震災関連の資料が並ぶ震災関連資料コーナー、中村文則氏・和合亮一氏の作品が並ぶ卒業生著作物コーナー、そして古い資料や貴重な資料が保管されている書庫など各エリアの整備やPCロッカーをはじめとするネットワーク環境の拡充など常にリニューアルオープンしている図書館の様子。図書館では利用者の皆さんがより使いやすいように、本を手にする機会が増えるように様々な工夫がなされています。また、最近ではコロナウイルスの対策として換気の徹底やアルコール消毒、サービスの制限、学内者限定の利用にするなど、利用者の安全面を考慮しながら開館しており、時期や状況に

合わせて柔軟に対応しながら常に変化し続ける図書館であると感じています。

コロナ禍で卒論や修論の調査が以前より難しく、友人とともに学ぶことも制限されている今日日ではありますが、上で紹介したような図書館のサービスや文献複写、相互貸借など図書館のサービスを120%活用していただき利用者の皆さんの学びがコロナ禍以前より充実したものとなるようカウンターの内側からサポートしていけたらと思います。

最後まで読んでいただいた貴方に一つだけ私が附属図書館で最も素晴らしいと思うサービスを紹介します。それは、図書館にない本の購入をリクエストできることです。自身に必要な本をリクエストして学びの質の向上に活かしていただけると幸いです。

ここまで紹介した素敵なサービスも含めて今後も図書館を是非ご利用ください。



福島大学附属図書館報

書 燈

発行日 / 2020年(令和2年)12月

発行元 / 福島大学附属図書館
〒960-1293 福島県福島市金谷川1番地
tel.024-548-8087

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/>



福島大学附属図書館報『書燈』第54号 目次

● 巻頭言 図書と大学とわたしたちと	高田 英和	…………… 1
● 思い出の一冊	吉田 龍平	…………… 2
● 資料展示コーナー「東日本大震災 福島大学の記憶」開設	附属図書館	…………… 3
● 新型コロナウイルス感染症への対応について	附属図書館	…………… 4
● 書庫紹介〈資料再配置の報告と今後の予定〉	附属図書館	…………… 5
● 学内教員著作寄贈図書の紹介		
『コミュニティ音楽療法への招待』	杉田 政夫	…………… 6
『複線径路・等至性アプローチ(TEA)が拓く保育実践のリアリティ』	保木井啓史	…………… 6
『文学はいかに思考力と表現力を深化させるか』	高橋 正人	…………… 6
『ふくしま原子力災害からの複線型復興』	清水 晶紀	…………… 7
『学歴・試験・平等：自治体人事行政の3モデル』	林 嶺那	…………… 7
『Cosmological Inflation, Dark Matter and Dark Energy』	馬場 一晴	…………… 7
● カウンターの内側から	神谷 一生	…………… 8

編集
後記

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、図書館も通常のサービスを提供できない状況となりました。今後も、感染症対策を継続しながら、皆さまに安心・安全にご利用いただける図書館を模索していきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いできれば幸いです。(A)